

浄法寺 森林事務所月記

岩手北部森林管理署HPでバックナンバー公開中!

編集・発行
岩手北部森林管理署
浄法寺森林事務所
二戸市浄法寺町
小池2-1
TEL.0195-38-2033

平成二十五年霜月



こんにちは、福田です。



「プロセッサ」が
玉切り・測尺・
払いの
枝で

ついに山は白くなり、降っては溶けを繰り返しながら冬への歩みを進めています。さて一般的に「伐採」で思い浮かぶのは「チェーンソーで木を切る」ですが、ではその後はどうやって木を引っ張り出し、一定の長さにするのでしょうか。人力？馬力？まさかまさか。今はそのほとんどが「高性能林業機械」で行われています。そう、浄法寺の山の中でも、伐採木をアームの内側にあるローラの回転で

送り出し、枝をしごき落とします。その強力で速いこと！木が「ごぼう」のようです…。動画サイトにたくさん映像がありますので、是非ご覧いただきたい！林業のイメージが一変します。それも特別なものではなく、どの林業事業体も保有しています。私も一度研修で操縦しましたが、ロボットに乗り込んだ気分でした。設定された長さまで自動計測し、アームの端に取付けてあるチェーンソーで切り落とします。その間、三秒もありません…。実際現場ではメカに強い、若い世代が乗り込んで活躍しています。



漆の里さんぽ

早々に落葉し、厳しい冬の訪れを待っている漆林ですが、今月は

漆の木についての催しが二つありました。まずは「うるしの日」記念植樹祭です。明神沢にある文化庁指定「ふるさと文化財の森」(ここが全国第1号!)に福岡高校浄法寺校の生徒のみなさんや漆掻きの方々など関係者が集まり、40センチほどの苗木を植えました。もう一つは漆林所有者向けの保育管理研修会です。所有者の高齢化や漆需要の低迷から、適切な保育がされない林が増加傾向にあります。林業も同じですが、10年先を見据えながらの保育管理する必要があります。漆掻きの「技」と健全な「原木」の掛け算があつてはじめて良質な漆が生産できるところを改めて実感しました。



栽てをにす
植し化代ま
の通文世え
苗を漆次伝

でを育をす
地演保ツま
現実てコび
←の見の学



森林のスポットライト

林道に車を止め、ふと足下を見ると外傷の無い小動物の死骸がありました。よくモグラに間違えられる彼らは「ヒミズ(日見ず)」。

マンガの題名にもなりました。ごく浅い地中で生活する彼らは、実は大食らいで半日以上摂食しないと死んでしまうそうです。死肉が臭く、他の動物の餌にならないので無傷の死骸が見つかりやすいのかも。前足が小さく、自分でトンネルを掘ることはありません。しかし死因は空腹なんて、ちょっと切なくなっちゃうんですけど…。

【くしもち】

そば粉を練って平たい餅状にまとめ、囲炉裏の縁に刺して焼いたもの。冷温な岩手県北では昔、米の代わりに主食とされ、一度に五・六個食す人もいたとか。絵にある味付けは、エゴマの実を煎って味噌と和えた「しゅね」と、「くるみ」味噌。安いの一本でも十分な食べ応えの人気商品です。家族みんなで集まって、囲炉裏で暖も食もとっていた昔の家庭が想像できますね。



浄法寺らまいもん



【食べられるお店】
浄南ママ直など